

地域再生計画

1. 地域再生計画の申請主体の名称

高島市

2. 地域再生計画の名称

安曇川特産アドベリーを使った地域再生プラン

3. 地域再生計画の取組を進めようとする期間

平成16年度～平成21年度

4. 地域再生計画の意義及び目標

(1) 高島市安曇川町の概要

本区域は、日本最大の湖、琵琶湖とその西岸に湖西最大の河川「安曇川」が生んだ肥沃な大地に広がる田園地帯、そしてその背後に展開する里山などからなる自然豊かな町です。その歴史ははるか古代にまでさかのぼり、特筆すべき文化と著名な人物を排出しています。中でも日本の陽明学の祖とも呼ばれる「近江聖人 中江藤樹」（1608～48）は、小川村（現在の高島市安曇川町上小川）に生まれ、江戸時代初期の儒学者として歴史に登場し、学問・思想だけでなく、徳の高い人物として当時から人々に知られています。また、豊かな町の自然環境を活かしながら、京阪神地域との交流産業を育成するため様々な取り組みを展開しています。

一方、滋賀県北西部に位置する本区域の人口は平成7年ごろをピークに徐々に減少傾向にあります。同時に急速に高齢化が進むとともに、従来は地元の工場頼りであった地域住民の就労意識が変化し、中国を初めとする海外との競争による工場閉鎖や工場移転に伴い、ますます大都市圏への移行が進み町内に残る若者も就労のため京阪神地方へ通勤をする人が増え、地域の活性化を妨げる結果を招いています。

(2) 高島市安曇川町の取り組み

このような中で、京阪神地方と北陸地方を結ぶ国道161号線沿いに、平成18年度を目途に（仮称）「道の駅あどがわ」の開設が予定され、この道の駅設置計画をきっかけとして、高島市安曇川町の特産品を生み出そうという気運が、地元農業者や商工業者らから沸き起こってきました。そこで、日本ではほとんど栽培されていない健康果実ボイズンベリー（アドベリー）に着目し、民間業者と商工会、農協、行政等による協議会（アドベリー生産協議会）が組織され、「アドベリー」とネーミングしてアドベリーを使った地域再生がスタートしました。

○ボイズンベリー（アドベリー）とは

ボイズンベリー（アドベリー）は、ブラックベリー類の一種で1920年代後半に品種交配で生まれました。葉酸や鉄分、食物繊維を多く含み、抗酸化作用のある成分アントシアニンはブルーベリーの6倍といわれ、健康食品として欧米で注目されている果実です。本町はこの栽培に比較的適した気候であるうえ、一級河川安曇川の透水性に優れた中洲が栽培地として適しているとい

う自然環境に恵まれているため、主産地のニュージーランドの法人団体からも技術協力を受ける予定であり、日本ではじめてボイズンベリー（アドベリー）を栽培、加工、販売することとなりました。

○意義

昨今の健康への関心の高まりや高齢社会を迎える中で、健康果実ボイズンベリー（アドベリー）は、（仮称）「道の駅あどがわ」の目玉產品とすることで、地域の農業者や商工業者による栽培や特產品としての加工について新たな需要を呼び起こし、さらに、行政や滋賀県立大学の研究機関などの協力・支援を受けることで産官学が連携した産業として地域経済の発展と活性化の充実が期待されています。このためには、従来からの関係機関の個人の協力に加え、栽培・保管、加工、

流通、販売の各段階において技術的指導、各種許認可及び助成措置の適用の助言など関係する国の機関や地方公共団体、地元経済界などの各部局の横断的な協力を得なければならないことが必要です。このため、特定プロジェクトの設置により、最も効果的、効率的に事業が実施できるように総合的な取り組みを行います。また、地域観光を活性化するために、人材の育成（スペシャリスト）や情報の支援を受けて「一地域一観光」を図っていきます。

(3)ボイズンベリー（アドベリー）がもたらす社会的目標

「アドベリー生産協議会」の取り組みは、愛すべき地域の自然を生かした農業の新たな可能性を探りながら、若手農産者が中心となりボイズンベリー（アドベリー）を栽培し、地域の商業者や加工業者が、これを生かした特產品や加工商品を自ら開発・加工し、流通業者は果実や加工された商品を広域に販売します。つまり、一次産業である農業と、二次産業である加工業、そして、三次産業である流通・販売業を掛け合わせた第六次産業とでもいう手法により、多くの地域住民が自らの参加しやすいところから事業に参加してもらい、多くの人の力で地域の活性化を導き出そうとするものです。このように、地域経済に一つの核が出来ることにより、これに伴う多くのアイデアが新たな産業を生み、若者が労働の喜びを見出せる環境が創り出され、さらに、地域の高齢者や主婦層にも特產品の加工グループとしての活動が展開されることにつながります。また、こうした事業の推進によりもたらされる若者の定住は、地域の子供を健全育てる地域コミュニティとしての土壌を作ることになり、子ども達も地域の自然を愛し、たくましく成長をとげることが期待できます。また、これらの展開の中で育まれた地域のコミュニティを活かして、ボイズンベリー（アドベリー）の原産国であるニュージーランドと農家や加工業者の交流にとどまらず、住民も含めた国際交流を図り、活気のあふれるまちづくりによる地域おこしを図ります。

(4)ボイズンベリー（アドベリー）による経済的目標

このように、ボイズンベリー（アドベリー）の栽培、加工、流通、販売を本区域の新たな産業として位置づけ、農業再生、新産業創出、商業の活性化などが図られるとともに、さらに、地域の景観を生かした観光農園やワイナリーを開設し、果実狩りやワインを味わうイベントなどを実施することで、街を訪ねていただいた多くの方と地域の方が触れ合いながら交流を広げることで、

観光産業による新たに雇用を創出していきます。

そのために、ボイズンベリーの苗木については、原産国のニュージーランドから日本への輸入を高島市安曇川町が窓口となり、受け入れ組織を設立し、パテント管理を徹底することで、特産品としての優位性を確保し、安定的な生産体制を確立します。

5. 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

「アドベリー」がもたらす社会的効果

(1) ボイズンベリー（アドベリー）の栽培から始まるコミュニティの活性化

遊休農地や安曇川の河川敷など栽培に適した土壌を活かしてボイズンベリー（アドベリー）を地域のコミュニティ単位の産業として育成することで、これまで米作に依存しがちな偏った農業経営からの転換を促し、地産地消費による新たな果実の栽培が、産業としての農業を活性化させるだけでなく、住民が集まり、一緒に作業し、会話によるコミュニケーションの機会が増えることで住民の意思疎通を良好にし、地域に連帯感のあるコミュニティが生み出されます。

「アドベリー」がもたらす経済的効果

(1) ボイズンベリー（アドベリー）の加工

パンやケーキ、クッキーなどに添加する材料としてだけでなく、濃縮果汁やジャムに加工し、さらには果実酒として醸造するための加工場を設けることで、新たな雇用が生まれます。また、ボイズンベリーが葉酸や鉄分、食物繊維を多く含み、抗酸化作用のある成分アントシアニンはブルーベリーの6倍であり、健康食品として欧米で注目されている果実である特性を活かした健康関連品として加工することで新たな需要を生み出されます。

(2) ボイズンベリー（アドベリー）の流通・販売

（仮称）「道の駅あどがわ」での高島市安曇川町の特産品として販売することだけでなく、一般店舗やスーパーなどでの販売、インターネットやカタログを使った通信販売などにより、安定的な流通を確保し、新しい商業活動の柱として位置づけることで、新たな雇用が創出されます。また、ボイズンベリーは果実がデリケートという特徴があり、鮮度管理が難しいことから、果実を味わうためには、生産地である高島市安曇川町における販売形式が主体とならざるを得ないため、「アドベリー」が認知されると、市の来訪者が増えることにより交流が盛んになり道の駅をはじめ地元の商店街の賑わいづくりにつながります。

(3) ボイズンベリー（アドベリー）を通じた国際交流

ニュージーランド原産の果実であるボイズンベリー（アドベリー）の栽培技術や加工技術の指導などを通じて、農家や加工業者の交流にとどまらず、住民も含めた国際交流を図ります。具体的には、高島市安曇川町の農家や加工業者によるニュージーランドで栽培技術や加工技術の研修や、ニュージーランドの技術者を招いて町内の栽培地や加工場で研修を行います。さらに、子ども達をはじめ一般住民が相互に交流することで、ボイズンベリーのふるさとであるニュージーランドの理解を深めます。

(4) ボイズンベリー（アドベリー）を使った観光

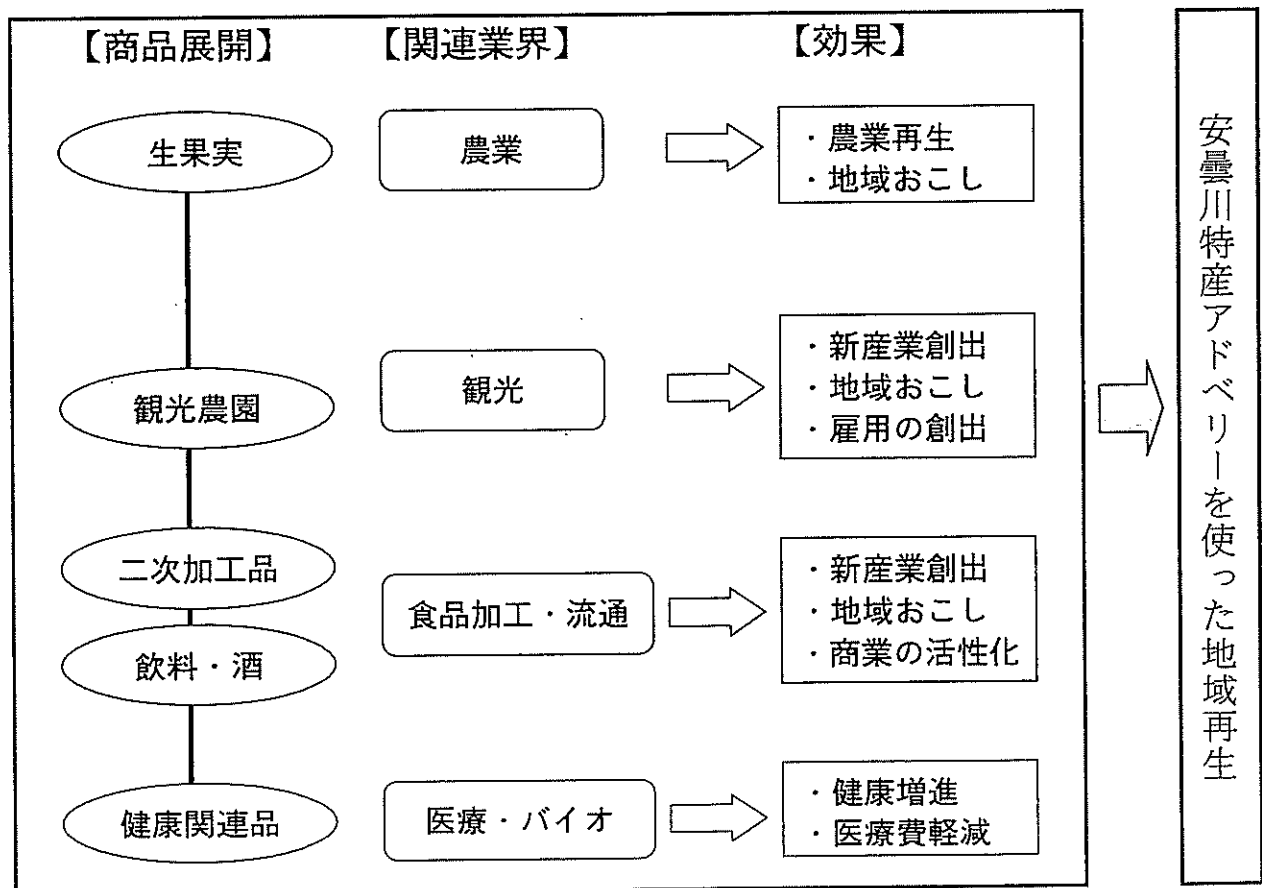
食物繊維やビタミン類を多く含む優れた健康果実であるボイズンベリー（アドベリー）狩りを楽しんだり、ワイナリーで果実酒を味わったりできる観光農園を中心とした各種のイベント実施により、新たな地域産業を創出し、雇用を生み出し、観光を振興します。

(5) 平成21年における具体的目標

○（仮称）「道の駅あどがわ」において高島市安曇川町の中心的な特産品として販売されていること。

○その他の目標

- ・栽培果樹数 約4,000本
- ・売上高 農産物 7,600,000円
加工物 390,000,000円
全国シェア 90%
- ・雇用者数 80人（町内100%）
- ・ジャム、ジュースの商品化完了
- ・ワインの商品化準備
- ・観光農園の開設
- ・イベントとして収穫祭およびニュージーランドフェアの開催



6. 講じようとする支援措置の番号及び名称

- 11203 : 地域再生支援のための「特定地域プロジェクトチーム」の設置
212016 : 「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

7. 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業

○平成16年度 小規模事業経営支援事業「地域活性化事業」

・平成16年4月・・・採択

内 容：高島市安曇川町アドベリー支援委員会の設立とボイズンベリー苗木の購入や産官学の連携による栽培方法の研究及びボイズンベリーの栽培を通しての主産国であるニュージーランドとの国際交流。

○平成16年度 ジェトロLocal to Local産業交流事業（ミニLL事業）単年事業

・平成16年3月4日・・・採択

内 容：今回、栽培しようとしているボイズンベリーは、ニュージーランドや欧米では、ポピュラーな健康食品でありながら日本ではあまり知られていない風味豊かな高い高酸化能成分を有する栄養豊富な食品であります。日本で本格的にニュージーランド産のボイズンベリーを栽培している地域はなく、栽培資料等もないなかでニュージーランド側から苗木の供給および技術指導を得る。

事 業：ミッション派遣「平成16年6月下旬から7月上旬まで（予定）」

「内 容」ニュージーランドボイズンベリーの栽培、加工、販売、営業方法について視察研修を行い、ボイズンベリーによる高島市安曇川町、ニュージーランドネルソンシティ双方の地域にメリットのある経済交流を行う。

・高島市安曇川町においては、ボイズンベリーによる第6次産業創出を行い、地域経済の活性化を図る。

・ニュージーランドボイズンベリーの苗木の輸入契約の締結。

有識者招聘「シンポジウムの開催」

「内 容」高島市民に本事業に対する理解と関心を高めていただくことと、アドベリーの栽培、加工、販売の産業創出を図るためにニュージーランドから有識者を招聘してシンポジウムを開催する。

○近畿経済産業局 通商部 「安曇川・ニュージーランドプロジェクト」チーム編成

平成15年12月25日チーム編成

内 容：ニュージーランドの「ボイズンベリー」を使った日本でただ一つのプロジェクト。既に苗木の導入、栽培の技術指導等の交流にともない、ブルーベリーを超える高い機能性を持つブルーベリーのジャム、清涼飲料水等の様々な食品への加工にあたり、産学官連携によるクラスター形成が期待されることから近畿経済産業局通商部の指導助言によりクラスターを創設する。

8.その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

なし

別 紙 支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容、支援措置を受けようとする者及び支援措置を講じようとする日

(別紙)

1. 支援措置の番号及び名称

11203 : 地域再生支援のための「特定地域プロジェクトチーム」の設置

2. 当該支援措置を受けようとする者

高島市安曇川町、アドベリー生産協議会

3. 当該支援措置を受けて実施し又はその実施しようとする取組の内容

現在、生産から加工・販売までの特産品づくり（第6次産業）の育成を目指して、ブルーベリーの6倍の高酸化能を有し、健康（特に目）によいボイズンベリーという新規果樹に出会い、平成15年度にアドベリー生産協議会を設立し、国内産の苗木による試験栽培を開始した。高島市安曇川町の「アド」とボイズンベリーの「ベリー」から「アドベリー」と称し、ニュージーランドの協力を得て、平成18年7月に開設予定をしている（仮称）「道の駅あどがわ」の目玉特産品と同時に市の再生シンボルとして確固たるものとする。この従来から関係機関の個人の協力に加え栽培・保管、加工、流通、販売の各段階において技術的指導、各種許認可及び助成措置の適用の助言など関係する国の機関や地方公共団体、地元経済界などの各部局の横断的な協力を得なければならないことが多い。

このため、特定地域プロジェクトチームを設置いただき、最も効果的、効率的に事業が実施できるように総合的な支援を求めることとしたい。

○プロジェクトチームの設置を要請するテーマ

安曇川特産品アドベリーによる地域再生

○内容（案）

- ①「道の駅あどがわ」における、アドベリー加工品等の販売について、他の道の駅での成功事例などの情報提供や安曇川の特性を生かした道の駅の活用方策のアドバイス
→【近畿地方整備局（企画部、建政部、道路部）】
- ②安曇川の河川敷の土壌がアドベリーの栽培に適しているため、栽培だけでなく、観光農園や収穫祭等のイベントとして河川区域である河川敷を利用できるような方策について検討
→【近畿地方整備局（企画部、建政部、河川部、琵琶湖河川事務所）、滋賀県土木交通部】
- ③アドベリーはニュージーランド原産の果実であり、気候風土の異なる安曇川での栽培については未知数な点が多く、いまだに栽培技術が確立されていないため、苗の保護、栽培に適した土地の選定、栽培方法の研究等についての産学官が連携した技術指導
→【滋賀県農政水産部、滋賀県農業協同組合中央会、滋賀県農業試験場、滋賀県立大学】
- ④アドベリーの流通、販売における支援
→【近畿経済産業局（産業企画部、産業振興部、通商部）、滋賀県商工観光労働部、
（社）滋賀経済産業協会、滋賀県農業協同組合中央会】
- ⑤アドベリーの苗および栽培技術の導入。また、アドベリーの日本市場開拓をニュージーランドの実施主体と共同で進めるための支援

→【日本貿易振興機構（JETRO）、滋賀県商工観光労働部】

⑥地域振興活性化事業の推進支援

→【近畿経済産業局（産業企画部、産業振興部）、滋賀県政策調整部・商工観光労働部】

⑦ニュージーランドからの食品輸入に関する助言、食品安全、残留農薬等に関する助言。

→【近畿厚生局 総務課】

⑧アドベリーに関する栽培施設、果実保管施設に対する助成支援

→【近畿農政局 企画調整部 】

（参考）特定地域プロジェクトチームの構成案

○近畿経済産業局 産業企画部、産業振興部、通商部

○近畿地方整備局 企画部、建政部、河川部、道路部、琵琶湖河川事務所

○滋賀県 政策調整部、商工観光労働部、農政水産部、土木交通部

○（社）滋賀経済産業協会

○滋賀県農業協同組合中央会

○滋賀県農業試験場

○日本貿易振興機構（JETRO）

○滋賀県立大学「栽培技術、商品加工」

○近畿厚生局 総務課

○近畿農政局 企画調整部

(別紙)

1. 支援措置の番号及び名称

212016:「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

2. 当該支援措置を受けようとする者

高島市安曇川町、アドベリー生産協議会

3. 当該支援措置を受けて実施し又はその実施しようとする取組の内容

食物繊維やビタミン類を多く含む優れた健康果実であるボイズンベリー（アドベリー）狩りを楽しんだり、ワイナリーで果実酒を味わったりできる観光農園を中心とした各種のイベント実施し、地域観光を活性化するために、人材の育成（スペシャリスト）や情報提供の支援を受けて、下記の課題を達成し「一地域一観光」を図って行きたい。

①販売店舗やワイナリー等の施設に観光客がリピートしてもらうための運営方法

→「アドベリー」の効果的な販売やPRの方法

- ・観光地づくりのデータベース（国土交通省HP等に記載）により、観光客に地域の魅力を発信するとともに先進地例等の情報を閲覧・活用する。

<http://www.mlit.go.jp/sougouseisaku/kanko/top.htm>

②アドベリーの観光農園や収穫祭のイベント企画に携わる人材（スペシャリスト）育成

→イベント企画のノウハウの開発やイベントに関わる人材教育等

- ・「観光カリスマ塾」へ参加する。
- ・外国人旅行者への対応のための研修へ参加する
- ・外国人対応マニュアルを配布する

③アドベリーを通じた国際交流の進め方に関するアドバイス

今年度からJETROの事業を活用して、ニュージーランド・ネルソンシティとの経済ミッションを契機とし、今後草の根の交流をはかるために、外国人対応マニュアルの作成や研修の支援を受け、一人でも多くの外国人に高島市安曇川町の良さを知ってもらい、「アドベリー」の縁で出来た交流の輪を広げて行きたい。